

共通テスト現行課程2年目の「公共、政治・経済」対策：授業で活きる教科書活用と年間指導計画

—生徒の思考力を育む、数研教材の効果的活用法—

奈良学園中学校・高等学校教諭
奥田 展大

1. はじめに

「令和8年度の大学入学共通テスト問題作成方針」(以下「作成方針」)では、『主体的・対話的で深い学び』を通して育成することとされている、深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視すること、問題の構成・内容として指導要領解説や教科書を基礎とすることが示されている。大学入学共通テスト(以下「共テ」)に向けて、本紙第81号で吉田(2024)が公民科の現状分析と、基礎的な概念や理論の定着の重要性を示していた。現行課程1年目の共テでは、吉田が指摘していたように、知識だけでなく多様な資料を用いて考察する問題が出題された。この特徴を踏まえ、本稿では、現行課程2年目となる2026年入試に向けた、数研出版の教科書の効果的な活用方法を示し、これを反映した高校3年次の年間指導計画を提案する。

2. 2026年入試に向けた教科書の活用

25年共テ「公共、政治・経済」の平均点は62.7点となり、24年の「倫理、政治・経済」の61.3点や「現代社会」の55.9点と比較すると上昇している。また、25年共テでは、資料読解や多面的思考を要する問題が増えた。この流れを受け、26年共テは難化することが予想されるため、23年「政治・経済」のように、より深い理解を伴った知識の質を問う問題(以下「知識問題」)と、より高度な知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題(以下「思考力問題」)の、両方の対策を行う指導が引き続き必要だろう。

「知識問題」への対策としては、吉田(2024)が述べているように、かなりの知識量が確保されている、数研出版の教科書での習得が有用である。25年本試験・追試験「公共、政治・経済」では、多くの問題で教科書『改訂版 公共』に関連する知識内容の掲載があった。資料としてまとめたので左の二次元コードからご覧いただきたい。

なお、森分(1978)が示した「社会科に

おける知識の構造モデル」では、ピラミッド図で「事実に基づく知識」「概念的知識」「評価的・規範的知識」が下層から順番に示されているが、教科書を用いて最も多く習得させるのは「事実に基づく知識」となる。

教科書の活用は、基本的な知識から細かい知識の習得という流れになる。基本的な知識の習得としては、例えば、『改訂版 公共』の「Challenge」コーナーの活用が挙げられる。ここでは共テの出題事例が掲載されており、学習意欲の向上を図ったり、生徒が自身の知識の習得を確認したりすることができる。また、細かい知識や事項の流れを習得させる指導としては、教科書本文ページの側注や図版資料、年表資料を使うことができる。例えば、『改訂版 公共』p.158の図1「日本経済のあゆみ」では、実質経済成長率・消費者物価指数のグラフと、戦後日本経済の主なできごとを一つの図のなかで紹介している。これにより、戦後日本経済史の具体的な内容に関して立体的に理解することができる。また、巻末年表「現代の日本と世界」では、高度経済成長期の日本や世界の様子を、それぞれの内閣の変遷と一緒にとらえさせる指導ができる。

「思考力問題」への対策としては、例えば、『改訂版 公共』p.10～11に掲載されている、「哲学対話」が活用できる。この「哲学対話」は25年共テ本試験でも出題された。公共の導入授業として活用し、生徒の関心を引き出すとともに、対話を通じて多角的な視点を養うことができる。その際、生徒たちの気づきを提出させ、観点別評価「学びに向かう力」の資料とすることが考えられる。

また、p.248～259「思考・判断・表現のためのツール」では、「思考力問題」のために身につけておきたい知識が紹介されている。その中のp.256～259「教科書の知識を試験にどうつなぐか」では、「思考力問題」などの出題事例が掲載されている。生徒に教科書本文を確認させながら取り組ませることで、「思考力問題」への対応力を高めることができる。

また、数研出版の教員向け会員制サイト「チャー



ト×ラボ」で配信されている、「共通テスト対応ワークシート」でも教科書と共テの出題事例をつなぐことができる。

3. 高校3年次「政治・経済」の年間指導計画案

限られた時間でどのように共テ対策を行うかについて、年間指導計画案を次に示す。「地理総合」「歴史総合」を1年次の必修科目、「公共」を2年次の必修科目、「政治・経済」を3年次の選択科目とした教育課程を想定している。なお、以下の案では、大学入試対策を中心に展開する授業と、放課後に開講している週1回2時間程度の講習授業を連動させている。

時 期	内 容
4～7月	授業：教科書『政治・経済』の未習範囲の講義 講習：数研出版の問題集『4ステージ演習ノート 公共』倫理分野の「STAGE B・C・D」の演習
8～9月	授業：『4ステージ演習ノート 公共』の政治・経済分野の「STAGE B・C・D」の演習 講習：教科書『公共』『政治・経済』を使用した弱点分野の講義
10～11月	授業：共テ過去問演習 講習：共テ過去問や模試の解説
12～1月	講習：予備校各社の予想問題演習 「共通テスト対応ワークシート」の活用

(著者作成)

この案では、前述の「作成方針」で「良質な問題作成を行う中で蓄積した知見や、問題の評価・分析の結果を問題作成に生かす」と示されていることから、過去問演習を十分に積ませることにしている。

4～7月では一通りの学習を終え、7月下旬に受験させるマーク模試で、ある程度の得点力を持たせることをねらいとしている。これには、生徒たちが8月以降に他教科の学習や国公立大学二次試験対策に時間を使えるようにするという意図がある。

8～9月は知識を定着させるとともに、テーマ別過去問題の演習を行う。そこで、数研出版が発行している『4ステージ演習ノート 公共』を用いる。『4ステージ演習ノート 公共』の「STAGE B」(基本的理解の確認)、「STAGE C」(応用的思考)、「STAGE D」(資料の活用)の順に演習を行い、「知識問題」から「思考力問題」への発展的学習を促す。ただし、知識の定着が不十分な生徒には、「STAGE A」(一問一答)を用いて基礎の再確認を行う。

10月以降は、共テ過去問演習と予備校各社の予想問題演習、その解説授業で実践力を高めさせる。筆者の勤務校では、例年、演習が進むに従って多くの生徒が得点を向上させ、共テ本番での得点力に結びつけることができています。

1月には、数研出版の教員向け会員制サイト「チャート×ラボ」で配信されている「共通テスト対応ワークシート」で最後の一押しをしている。

4. おわりに

本稿では、共テ「知識問題」「思考力問題」対策のための教科書・副教材の活用と年間指導計画について提案した。

これまで述べてきた内容は、社会科教育学でいう「網羅主義」や「技術主義」に立つものに過ぎない。社会科教育で「深い理解」を促す教授について、松本(2018)は「社会認識の概念変化、共感としての視点取得、発達のパフォーマンスという3つの要素を有する」としている。「主體的・対話的で深い学び」による深い理解を促す教授について、共テを見据えた年間指導計画や個別の授業展開にどのように結びつけていくかを今後の検討課題としたい。

また、共テでは「各種統計などの多様な資料、様々な立場に立って話し合う場面等から必要な情報を読み取り、考察する問題」の出題を検討するとされており、本紙82号において小原(2024)、児玉(2024)によって統計を使って学びを深める方法が示されている。教科書を活用した共テ対策に、統計をどのようににつなげることができるかについても検討したい。

【参考文献】

- 児玉英靖(2024)「社会科の授業における統計の学習を通じた社会科学教育とデータサイエンス教育の可能性を考える」『数研 AGORA』(82)5-8
- 小原美紀(2024)「社会科で「統計データ」を使う楽しさ」『数研 AGORA』(82)1-4
- 大学入試センター(2024)「令和8年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」
- 松本浩司(2018)「社会科・社会科学教育における〈深い理解〉を促す教授—理解の多元・重奏性をふまえて—」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』(54)3, 115-133
- 森分孝治(1978)「社会科の知識と学習内容構成の原理」『社会科教育論叢』(全国社会科教育学会)(25)30-33
- 吉田英文(2024)「共通テスト「公共、政治・経済」に向けて」『数研 AGORA』(81)5-6